

科目名	演習 1							年度	2024
英語科目名								学期	前期
学科・学年	放送芸術科 1 年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	長濱和久、金井高広、笹本篤、草間巧、石田桃子	教員の実務経験		あり	実務経験の職種		放送映像業界全般		
【科目の目的】 この実習を受講する学生は、ローテーション実習で各コースの基礎や本質を体験することで、自分自身の興味や適性を見出し、将来のビジョンを明確にすることができる。さらにすべてのコースの基礎も経験できる為、自分自身のスキルアップにも活かすことが可能となる。									
【科目の概要】 この授業では、コミュニケーションを養うために、チームで協力をする機会を多く作る。より多くの学生に映像制作の魅力や仕事内容を伝えられるように意識をしながら進める。初めから他のコースを選択しないと決めている学生にとっても、基礎となる部分を分かり易く修得できるように心掛け映像制作に活かせる技術を学びます。 ※ローテーション実習は学生を 6 班に分け、各コース5回行う。									
【到達目標】 この実習では、どの職種が自分自身に合っていて、関心を持つことができるのかを、実際に機材を触り体験することで明確にすることが目標である。さらに、明確になった後はコース別に実習を行い「基礎・応用」を学び「技術力・問題解決能力・発想力」を身につけ、映像制作に活かせるようになることが目標とする。									
【授業の注意点】 この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会に出てからのマナーやコミュニケーションといったことも重視して授業を受けるように促す。（詳しくは、最初の授業で説明）授業出席率の注意を都度促す。ただし、授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A カメラ	カメラ操作の基本を正しく理解している		カメラ操作の基本をある程度理解している			カメラ操作の基本を理解していない			
到達目標 B 制作	制作業務の基本を正しく理解している		制作業務の基本をある程度理解している			制作業務の基本を理解していない			
到達目標 C 音声MA	音声収録操作とMAについての基本を正しく理解している		音声収録操作とMAについての基本をある程度理解している			音声収録操作とMAについての基本を理解していない			
到達目標 D 照明	照明機器操作の基本を正しく理解している		照明機器操作の基本をある程度理解している			照明機器操作の基本を理解していない			
到達目標 E 編集	編集機器操作の基本を正しく理解している		編集機器操作の基本をある程度理解している			編集機器操作の基本を理解していない			
到達目標 E 美術	美術スタッフ業務の基本を正しく理解している		美術スタッフ業務の基本をある程度理解している			美術スタッフ業務の基本を理解していない			
【教科書】									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 実技 50%レポート 25%平常点 25%									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

